



都志見新聞

(医)医誠会都志見病院
http://tsushimi.jp

発行部数 500部
発行月 1, 4, 7, 10月
発行人 都志見病院
広報委員会



-シリーズ-

“がん”について知っておこう 「乳がん」



今回は、女性が最もかかりやすいがんである乳がんについてお話しします。

乳がんは女性の12人に一人がかかるとされていますが、死亡数は第5位であり早期に発見すれば比較的治りやすいがんといえます。女性乳がんの1%程度の割合ですが、男性でも乳がんにかかります。乳房(にゅうぼう)は母乳をつくる乳腺と、それを運ぶ乳管、これらを支える脂肪などからなっています。乳がんの多くは乳管から発生します。乳がんが見つかるきっかけとしては、乳がん検診を受けて疑いを指摘される場合や自分で症状に気付く場合が多いようです。自分で気付く症状としては、乳房のしこり、乳房の皮膚の変化、乳頭からの分泌液、わきの下のリンパ節の腫れ(はれ)などがあります。乳房の痛みや腫れといった症状は乳がん以外の病気で起こることも多く、詳しい検査をして乳がんかどうか調べる必要があります。



乳がんの発生には、女性ホルモンのエストロゲンが深く関わっていることが知られており、初経年齢が低い、閉経年齢が遅い、出産経験がない、初産年齢が遅い、授乳経験のないこと、経口避妊薬の使用などが危険性を高めます。その他には、乳がんになった近い血縁者がいる、飲酒、閉経後の肥満、運動しないことなども乳がんの発生する危険性を高めます。

乳がんを予防するためには、飲酒を控え、閉経後の肥満を避けるために体重を管理し、身体活動度を高めることがよいと考えられています。

乳がんは早期発見により適切な治療が行われれば、良好な経過が期待できます。しこりなど自覚症状がある場合は速やかに受診することをお勧めしますが、無症状の場合でも、乳がん検診により乳がんが見つかることがあります。定期的な検診や自覚症状がある場合の受診について、当院でも対応しておりますので御遠慮なくお尋ねください。

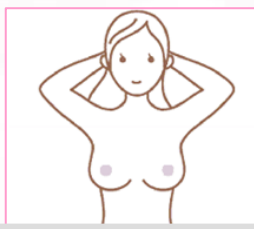
外科医師 亀井滝士



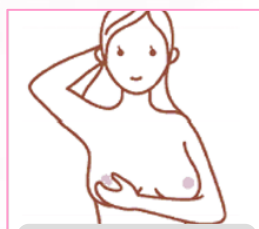
自己検診(月に一回行いましょう)



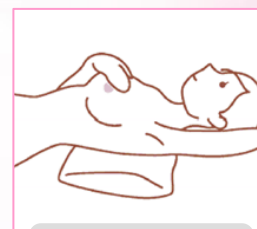
4本の指で「の」字をかくように触る



頭の後ろで手を組み胸の筋肉を緊張させて変化を調べる



乳頭から、分泌物が出ないか調べる



仰向けに寝て触ってみる

認定NPO法人 J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動)



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018 やまぐち

9月29日(土) 周南市陸上競技場で開催され、都志見病院チームとして参加してきました!! 当院はこれからがん患者さんやそのご家族に寄り添い支援してまいります。



「訪問看護ステーションつばき」が あなたらしい生活をお支えます!!



「訪問看護ステーションつばき」は平成10年6月1日に開設し、今年で丸20年が経ちました。様々な疾患で療養されている皆様が、ご自宅で安心・安全に、ご自身らしい生活を続けられるようにと、在宅医療のスペシャリストとして利用者様やそのご家族の支えになりたいと日々努めて参りました。

一口に療養とは申しますが、症状は比較的安定しているけれど継続的な療養が必要な方、医師の指示に基づく医療処置や看護が必要な状態の方、経管栄養・在宅酸素・吸引・点滴注射・人工呼吸器・緩和ケアなど、高度な医療処置を必要とされる方など利用者様の状況は様々です。そのお一人おひとりの利用者様に常に寄り添い、住み慣れたご自宅で希望される療養生活に少しでも近づけられるよう、24時間支援させていただくのが「訪問看護ステーションつばき」です。

ご入院中から、病棟や多職種のスタッフと連携を図りスムーズに在宅生活に移行できるように相談や支援を行ったり、居宅介護支援事業所のケアマネージャーや訪問リハビリテーション室などあらゆる部署とも連携を図っております。また、退院直後の不安を軽減できるように数日間の訪問にも対応させていただきたいと考えております。

ご自宅で自分らしく暮らしたい、最期は自宅で看取りたい・看取られたい等、患者様やご家族の方の思いを実現できるよう、また、ご不安を少しでも解消できるように、つばき職員全員で一生懸命務めさせていただきます。

「訪問看護ステーションつばき」は都志見病院 東館1階にございます。在宅療養についてお悩みの方、どんな些細なことでも構いません。是非一度ご相談にお越しください。お待ちしております。



気管吸引の様子



腹部の聴診

在宅療養されることにより、癒され安心した表情を見せていただく瞬間は、自宅での生活がいかに大切に痛感すると共に私達訪問看護師が一番やりがいを感じる瞬間でもあります!!



臨床工学技士

～在宅でも医療機器のことはお任せ!!～



近年、医療の多様化により在宅医療も高度化してきています。

これまでは在宅では困難とされていた医療機器を用いた治療も、患者様のニーズにできるだけ応える形で実現できるものもあります。

しかし、医療機器を在宅で使用するということは、患者様はもちろんのことご家族にも「機械がちゃんと操作できるだろうか?」「故障したらどうしよう」などの不安が付きまとうことでしょう。

そこで、登場するのが医療機器のスペシャリスト『臨床工学技士』です。臨床工学技士は病院内の医療機器を一手に引き受け、機器の操作や保守管理をしています。

「訪問看護ステーションつばき」では、山口県内の訪問看護ステーションに先駆け、都志見病院の臨床工学技士と連携して、人工呼吸器や点滴用のポンプを使用している在宅患者様のサポートをしています。

臨床工学技士が病院から飛び出して、在宅患者様のご自宅で機器の取り扱い説明や、定期訪問を行い機器のチェックを行います。

患者様とご家族が、安心してお家で医療機器をご使用になれるよう、24時間365日体制で対応いたします!!



人工呼吸器を使用している様子



患者サービス向上委員会主催 萩弦楽オーケストラミニコンサート



9月11日(火)14:00～15:00 東館1階待合室で開催しました。
参加者は、患者様・職員で約80名でした。G線上のアリア、ノクターン、NHK朝の連続テレビ小説メロデー等、バイオリン、ヴィオラ・チェロ・・・生で聴く音色に皆うっとり～♪ 茶摘みの曲に合わせ、皆で手足を動かしながら歌いました。テレビでなじみの曲も多く、楽しい時間を過ごしました。



バイオリンとヴィオラは
少し大きさが違います



医療職のたまご から未来へ

～職場体験・1日ナース体験を引き受けました!!～

今年も7月～8月の夏休みの間に、市内の中学校(3校合計4名)の職場体験と看護協会主催の1日ナース体験(中学生2名・高校生2名)を引き受けました。看護師を将来の職業にしたいという思いがあふれていました。それぞれ1日～2日の実習でしたが、学生さんは見るもの、行うものが初めての経験であり、目を輝かせて多くの事を学ばれていました。

将来の職業として看護職に就きたいという人が増えていきます。この職場体験で看護職を理解してもらい、萩の地域医療・看護を担う「金のたまご」の育成につながる機会になればうれしいです。担当部署職員の皆さんのご協力に感謝!!



救急蘇生法「救命のリレー」の第1歩が踏み出せるように...



平成30年9月5日、「救命法」研修を行いました。看護部・他職種の新規採用職員、総数45名が参加して下さいました。医療の現場に携わる者として院内の患者または地域住民の救命に貢献できるよう、適切な救命の知識と技術を身につけることを目標に、毎年9月に「救命法」研修会を開催しています。

今回は萩市消防本部より、北川さんと坂井さんに講師をしていただきました。親切・丁寧な熱いご指導の下、活気ある研修会となりました。また、安藤医師、正木医師も共に参加し、温かい眼差しで訓練の様子を見守っていました。



萩夏祭りヨイショコショパレード

8月2日(木) 毎年恒例のパレード。今年の都志見病院の踊り参加者数は、近年で最も多い95名! 皆元気に踊って参りました♪



『第13回 出前講座 in 弥富』開催のお知らせ

平成25年から開始しました“出前講座”も早5年が過ぎ、13回目となる今回は、弥富方面へお邪魔させていただくこととなりました。講演はもちろんの事、看護師による血圧測定、がんに関する様々なパンフレットの配布、患者サロン“だいたい”のご紹介も行っております。どなたでもご参加いただけます。地域の方をはじめ、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

◆日 時：平成30年11月17日(土) 10:00～11:30

◆場 所：弥富交流促進センター ふれあい研修室

◆テーマ：“がん”について知っておこう

都志見病院 第13回 出前講座

“がん”について知っておこう

日時 平成30年11月17日(土)
10:00～11:30 (9:30開場)

会場 弥富交流促進センター ふれあい研修室
入場無料・申込不要
※参加費の半額を、先着順で抽選で10名様にプレゼントいたします。

プログラム

講演1 知得！納得！！「がん」診療
副院長 山本達人

講演2 病気になるまで家で暮らすために…
なまはた総合病院 がんセンター 中山京子

講演3 がんとうき合う
患者サロン“だいたい”代表 岡野芳子

質疑応答

看護師による血圧測定 パンフレット展示 患者サロン“だいたい”について

都志見病院 弥富分院



学会発表してきました

第73回 日本消化器外科学会 in 鹿児島

坂本医師『感染性仮性動脈瘤に対するInterventional radiologyと外科的治療によるCombination Therapy』

亀井医師『殿部鈍的外傷による外傷性小腸穿孔の一例』

外科の医師3名が
学会発表をしました

ISDE 2018 - 国際食道疾患学会 in ウィーン

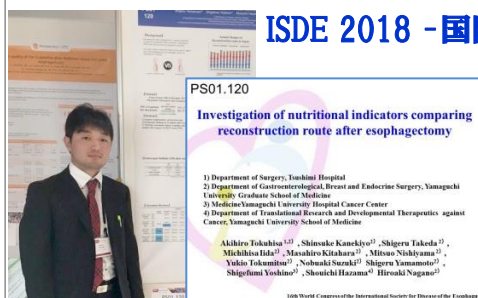
徳久医師

『Investigation of nutritional indicators comparing reconstruction after esophagectomy』

オーストリアのウィーンで発表してきました。

海外と日本の学会発表の仕方の違いや

疾患の概念や術式等の治療方針の違いについて学ぶことができ、今後の日々の診療に役に立つ有意義な学会でした。



TSUSHIMI Hospital

Combination therapy with interventional radiology and surgical treatment for infectious pseudoaneurysm

Department of Surgery, Tsushimi Hospital
Kazuhiko Sakamoto,
Kazuhiro Tokunou,
Akihiro Tokuhisa,
Ryoji Kamei,
Yoshinori Kitamura,
Tatsuhito Yamamoto,
Seichiro Ando

A case of traumatic small intestine perforation caused by buttock blunt injury

Ryoji Kamei, Tatsuhito Yamamoto, Akihiro Tokuhisa, Kengo Tsubota,
Kazuhiko Sakamoto, Yoshinori Kitamura, Seichiro Ando
Dept. of Surgery, Tsushimi Hospital

地域災害多職種研修会 ～地域災害における多職種連携体制の構築に向けて～

平成30年9月15日(土)の午後、サンライフ萩において、地域災害時における医療・介護関係者等の役割分担と連携、そして支援のあり方を考える目的で研修会が開催されました。市民の方や関係者を含め、215名の参加がありとても活発な研修会となりました。

一般講演は「地域災害時における災害拠点病院の役割」と題して、都志見病院の山本達人副院長が、特別講演として「近年の災害医療対応」と題し、国立病院機構災害医療センター教育研修室長・厚生労働省DMAT事務局次長 近藤久偵先生より、災害の多い日本の災害医療対応の現状について貴重なお話を聴くことができました。シンポジウムでは、平成25年7月28日に発生した「萩市東部集中豪雨災害」に対応された岩武明司氏と佐久間暢夫先生の災害の検証を通じて、今後いつ起こるかも知れない「災害」について医療・介護・行政の連携について考える時間となりました。

9月は防災月間です。当院は萩保健医療圏の地域災害拠点病院となっています。DMAT隊もありますが、職員各自が、災害時の病院の役割を見直す機会となりました。個人的にも自宅の災害時の対策も立てたいと思います。災害はいつ起こるか分かりません。各自が十分な対策を考えていきましょう。





No.5

足部と膝の関係実践②

～ 歩行編 ～

前回までは“拇趾を踏みしめて歩くこと”が膝痛の原因になりえるというお話をさせていただきました。拇趾に力を入れて踏ん張って歩くと、長拇趾屈筋(図1)という筋肉を常に働かせしめることになります。この筋肉を常に働かせることで重心を足底の前側(前足部)に移動させ(図2)、膝痛を誘発し易くなります。加齢変化である円背は、さらに前足部荷重を促進することになります。背骨の加齢変化はどうする事もできませんが、拇趾踏みしめ癖はパタパタと足音をたてて歩くことで軽減されます。長拇趾屈筋という筋肉は、足関節をまたいで足首を固定する作用があります。足首が固定されると摺り足となり、パタパタという足音がしなくなります。拇趾の力を脱いて踏みしめないように歩くことで、足首の固定が解除され膝関節へのストレスは軽減されます。対処法としては“拇趾を踏みしめないでパタパタと足音をたてる”が正解です！

リハビリテーション部
スタッフは笑顔と感謝を
もって患者様をお迎えし
ております。痛みのこと
なら何でもご相談くださいませ。



図1 長拇趾屈筋

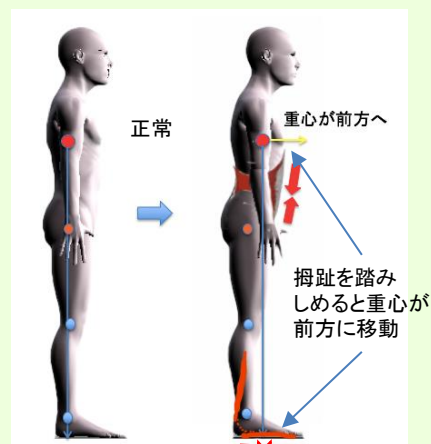


図2 重心前方化